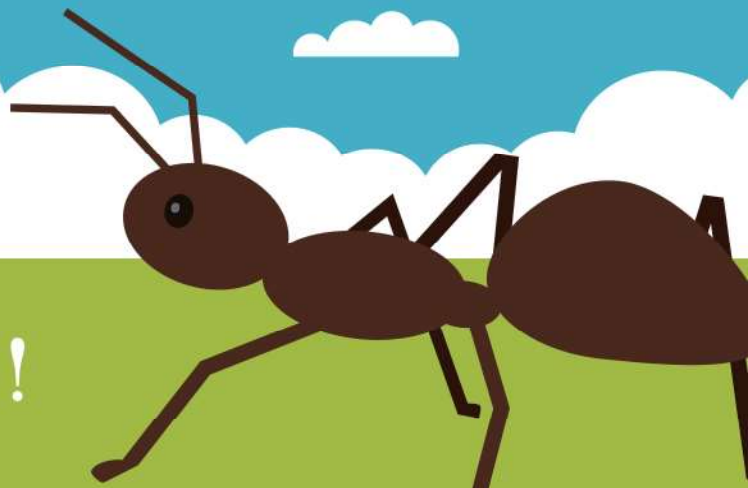


# 結果報告

自然しらべの日



# 身近なアリしらべ!



主催 公益財団法人 日本自然保護協会

共催 読売新聞東京本社

協賛



協賛 Gakken



なごや生物多様性保全活動協議会

E-ne! ~good for you~ (FMBC/NTV)

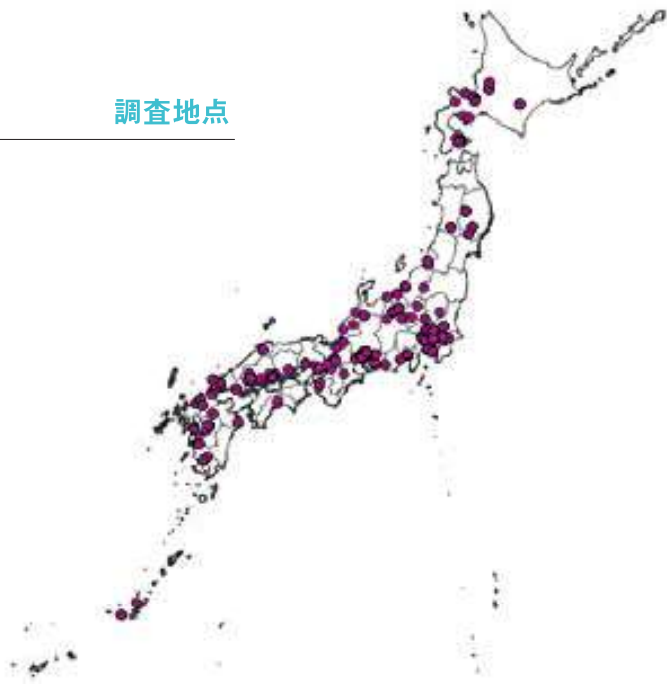
NEC presents THE FLINTSTONE (bayfm)

# 自然しらべ 2018 身近なアリしらべ

## 結果報告



### 調査地点



アリは、家の庭先や公園、道ばたのような身近な場所で見られるなじみ深い生きものです。今回の「身近なアリしらべ!」は、身近にあるさまざまな環境に見られるアリを探し、発見することで、私たちの住んでいる生活環境を理解するために行いました。

調査期間：2018年6月～10月

参加者・調査地：延べ 1590人・222カ所

共催：読売新聞東京本社

協賛：Sanikleen COLORATA。

協力：学研・富士通、なごや生物多様性保全活動協議会、  
E-ne! ～ good for you ～ (FMヨコハマ)、  
NEC presents The FLINTSTON (bayfm)

学術協力：寺山守 (東京大学農学部・理学博士)、  
岸本年郎 (ふじのくに地球環境史ミュージアム)

写真：高野丈 / マニュアルデザイン：君島晃 (リンクク)

## 身近に見られるアリの顔ぶれが変わりつつある

今回の調査で、20～30年前にはほとんど見られなかったアリが、身近な場所で見られるようになってきたことが分かりました。いくつかのアリの分布の変化をお伝えします。

### クロヒメアリ

島部を除いた関東地方では2015年に東京都大田区で初めて発見され、その後、都内で次々に記録されているアリです。今回は東京都と埼玉県から情報が得られました。急速に分布を広げているようで、名古屋市内でも2カ所から発見されました。

### クロニセハリアリ

8月に都内で行われた「アリ博士になろう! 観察会」で観察されました。以前は関東地方に生息していなかったアリですが、1979年に千葉県で発見され、1985年には東京都からも見つかりました。その後、公園や河川敷、住宅地で次々と生息が確認され、関東地方で急速に増殖しているようです。さらに近年、東北地方や北海道の工場敷地や居住地域などでも発見され、全国規模での急速な分

布の拡大が考えられます。特に身近な場所での観察で留意すべき種です。

### ルリアリ

近畿地方以南では以前から見られましたが、近年、中部地方の沿岸部や関東地方でも頻繁に見られるようになりました。今回、沖縄県、鹿児島県、山口県、広島県、島根県、愛知県、関東では東京都と埼玉県で確認されました。

### ケブカアメイロアリ

以前は本州に生息していなかったアリです。1994年に広島県で発見され、その後、山口県、兵庫県、大阪府、京都府、愛知県、静岡県、石川県と太平洋岸を中心に次々と発見されるようになりました。関東地方でも近年、東京都と神奈川県で発見されました。

今回のアリしらべで名古屋市内では、公園を中心に急速に分布を広げていることが分かりました。



## 日本で普通に見られる種は？

今回の確認数のランキングは、上位10種程度までが、日本で昔からごく普通に見られるアリでした。ランキングのトップはクロヤマアリで、次いでトビロシワアリとアミメアリと続きます。これらは道ばたや半裸地のような開けた環境に多く見られる種で、日常的に最も出会う機会の多いアリでしょう。樹上営巣性のハリブトシリアゲアリが第4位に入っていますが、庭先のちょっとした植え込みにも巣をつくる種です。

アリの多様性には大きな変化が見られないことが分かりました。

### アリ報告数ランキング トップ

1位	クロヤマアリ	145
2位	トビロシワアリ	112
3位	アミメアリ	101
4位	ハリブトシリアゲアリ	85
5位	クロオオアリ	73
6位	トビロケアリ	72
7位	オオズアリ	71
8位	アメイロアリ	60
9位	オオハリアリ	55
10位	サクラアリ	48

### クロヤマアリの確認地点



## ヒアリ類は発見されず

2017年に続いて2018年もアカヒアリ（ヒアリ）の日本への侵入が続きました。人を刺し、ときには過敏反応により死に至ることもある危険なアリとして、社会の注目を浴びています。現在、日本では港湾部や空港でヒアリ類の国内への侵入を食い止めようと、さまざまな努力が続いています。

今回の調査・観察では、アカヒアリや近似種のアカカミアリは発見されませんでした。水際での侵入阻止の効果が効果を上げており、現在、国内へのヒアリの定着は阻止されていると思います。

## まとめ

今回の調査では、小さなアリの正確な名前を、参加者の皆さんが調べることができるかどうか心配でした。皆さんから送っていただいたサンプルを確認したところ、判定出来ず（17%）を除いて、名前の正答率は71%でした。日本には約300種類のアリがすんでいます。普通種に絞り込んで名前を調べると、これくらいの同定を行うことができるのです。今回の体験から、私たちが自然に身に付けている、生きものへの識別能力は相当高いと思いました。

多くの人々が身近なアリに目を向けることによって、

例えば私たちの生活に大きな被害をもたらす恐れのある外来種のヒアリ類が一般居住地域に侵入したとしても、速やかに発見、報告がなされ、私たちの生活が守られることにつながります。そして何よりも、古くから身近に生息している多くの普通のアリに目を向けることで、私たちの生活の場としての環境を意識し、多種多様な生きものとのつながりを実感していけるのではないかと思います。

（寺山 守／自然しらべ学術協力者）



# 自然しらべ 2018 アリの報告数ランキング トップ 10

クロヤマアリ



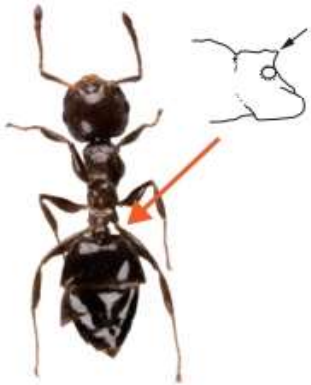
トビイロシワアリ



アミメアリ



ハリブトシリアゲアリ



クロオオアリ



トビイロケアリ



オオスアリ



兵アリ

働きアリ

アメイロアリ



オオハリアリ



サクラアリ



『自然しらべ 2018 身近なアリしらべ! 結果報告 』

発行日 : 平成 31 年(2019 年) 3 月 1 日

発行 : 公益財団法人 日本自然保護協会